

社北公民館発！ ～ぐるぐる広がれまちづくりの環・和・輪～

社北公民館

1 地域密着型の公民館

社北公民館は、地域密着型の公民館として、地域の団体や住民と密接に関わりを持ちながら事業を行っている。現在、実施している5つの教育事業や地区事業、まちづくり事業などは、すべて地域住民が運営にかかわって活動している。しかし、運営にかかわる住民は運営審議会委員など公民館に近い存在の人が多く、幅広い地域の声が事業に反映されていないケースもある。その結果、地域活動への参加や公民館の利用が広がらないという問題もあった。そこで、世代を超えた幅広い地域のニーズを館の事業に取り入れていくために、社北公民館ではPDCAサイクルの活用を始めた。

2 PDCAサイクルの取組

～チャオカード作戦～



チャオカードキャラクター



社北公民館の特徴的な教育事業として、チャオカード作戦がある。この作戦は、親子が一緒に体験型学習に取り組むことで、親子の絆を育み子どもの健やかな育成と健全な家庭環境づくりを目的に、地域のくすみ児童館と共同で開催している。

福井市の児童館は、福井市社会福祉協議会の組織で、福井市生涯学習室に所属する公民館とは全く別の組織である。そのため、社北地区のように公民館と児童館が連携して事業に取り組むことは市内の他の地域では例がない。しかし、私たちは、職員同士の交流をきっかけに、平成21年度から共催事業としてスタートした。チャオカードとは、「いっちゃん」「やっちゃん」

「あつめちゃん」という3つのキャラクターから命名したポイントカードである。チャオカード作戦では年間12回の学習を行っている、1回の学習に参加するこのチャオカードに1ポイントがもらえる。年度末の最後の学習では、1年間にたくさんのポイントを集めた親子を表彰している。表彰してもらうことが参加意欲の継続につながり、毎回、参加する親子が増えている。

【Plan】

チャオカード作戦は、2月から3月にかけて、児童館職員と一緒に、年間の学習計画を立てる。

打ち合わせでは、前年度の反省点や参加者の要望を取り入れ、新しい企画の検討や、活動の進め方や運営に協力してもらう団体への依頼など、何回も時間をかけて計画を練り上げている。

【Do】

4月からは、計画に基づき学習活動を行っている。参加者には、地域に配布する公民館のお知らせや、小学校を通じて子どもたちに配布する児童館のお知らせなどで呼びかけている。月1回の学習活動には毎回100名前後の親子が参加している。多いときには、200名を超える参加もあり、いつも大盛況である。学習活動の運営は、公民館と児童館の職員で行っている。ファミリーウォークラリーや親子やきいも大会など、多くの人手が必要な活動では、運営審議員や民生委員、中学生など地域の人たちに協力をお願いしている。それぞれの学習活動を行う際には、公民館職員が、協力してもらえる方と事前に打ち合わせを行い、スムーズな運営ができるように、常に心がけている。

【Check】

各学習活動の終わりに、参加者へのアンケートを行っているが、気付くことがたくさんある。たとえば、ファミリーウォークでは、中学生のお姉ちゃんと一緒に楽しかったという声もあり、地域の大人や中学生たちとふれあうことも、チャオカード作戦の大きな魅力のひとつになっていることが分かる。また、毎年、継続している「親子でとんかち」では、昨年と比べて、わが子がノコギリの使い方がうまくなったと驚いている保護者の感想もあった。学校教育ではなかなか経験

できない親子の体験型学習は、子どもの成長を実感できる良い機会になっている。

【Action】

各学習活動の終了後には、参加者の様子やアンケートなどを基に、児童館職員や運営に協力してくれた地域の人たちと話し合いを持ち、内容や進め方について、改善点などを検討している。チャオカード作戦がスタートした最初の年には、「もっとお父さんが参加しやすい学習活動があるといいね」という意見をいただき、その翌年から、お父さんが参加しやすい日曜大工やスポーツチャンバラの学習活動を取り入れた。その結果、参加する保護者のうち、お父さんの割合は初年度は25%だったが、今では40%を超えるまで増えてきている。最近では、すべての学習活動に、お父さんが参加する家庭もある。



親子で とんかち

このように、参加者や運営協力者の声を取り入れながら見直しを行っていることが、参加者にも運営側にも楽しい学習活動となって、愛着を持てる事業につながっていると感じている。

3 PDCAサイクル活用の効果

PDCAサイクルの活用によって、公民館にいろんな変化があった。まず、私たち職員の意識が少しずつ変わってきたことである。今までは、毎年同じことを繰り返すだけだったのだが、今では、地域の声に耳を傾けて事業を見直す積極性が持てるようになった。たとえば、中学生たちが学校の文化祭で発表した地域の西部緑道公園の活性化案を聞いて、公民館が中心となり、西部緑道イルミネーションという新しいまちづくり事業をスタートしたのもその一例である。はじめは、電源をどのように取るかなど、新しい事業を行う苦労も多くあったが、なんとか地域の中学生たちの提案を形にしたいという想いで、みんなで話し合いながらひと

つひとつ解決していった。その甲斐あって、いまでは、地域の人たちにとっても楽しんでもらえる一大イベントになっている。もうひとつの変化は、若い世代の地域活動参加や公民館の利用が増えてきたことである。西部緑道イルミネーションをきっかけに、中学生たちが、いろんな地域活動に参加してくれるようになった。地域の社中学校では「1部活動・1ボランティア」を合言葉に、年間18回以上の地域活動に参加している。中学生たちが地域活動に参加するようになったことで、地域の人たちも、中学校を身近に感じるようになり、学校と地域との連携も深まってきている。また、最近では、乳幼児を持つお母さんたちのグループが毎週公民館を利用し、みんなで子育ての話をし、とても楽しい時間を過ごしている。公民館の子育て支援事業では、運営にも協力してくれて、私たちと一緒に楽しくイベントを開催している。



子育て支援事業 クリスマス会

〈終わりに〉

私たちは、地域の声を反映し、事業の見直しを継続していくことが、公民館にとっても、地域にとっても、一番大切なことだと学んだ。また、いろんな人たちと協力することで、地域をより良く変えていけることを知った。そして、いろんな事業に楽しく参加してもらえることが、私たち公民館職員の充実感、達成感につながっている。社北公民館では、これからも地域のみなさんと一緒に、公民館事業やまちづくりを通して、明るく楽しい地域創りに励んでいきたいと思っている。

社北公民館は、平成25年度に文部科学省より、優れた活動を行った全国の61公民館の中で、最優秀公民館として表彰されました。地域に開かれた公民館として、あらゆる年齢層の人々を巻き込んだ取り組みについて紹介しました。